

令和3年8月20日

令和3年第2回臨時会を終えて（談話）

東京都議会自由民主党 幹事長 小宮 あんり

小池知事の召集により開会された、令和3年第2回臨時会は本日終了しました。

本臨時会に付託された議案は、新型コロナウイルス感染拡大防止等に係る補正予算及び専決処分の計4件、1兆863億円の予算です。都民の命と健康に直結する極めて重要な予算であり、我が党は切迫した危機感を持って、付託議案に対する審査をいたしました。

まず、2件の専決処分ですが、まん延防止等重点措置の適用に伴う補正予算と、東京に緊急事態措置が適用されたことに伴う2件の補正予算は、いずれも感染防止対策に必要な専決処分であり、これを承認しました。

また、ワクチン接種、飲食店への協力金やその他影響を受けた中小事業者等に対する給付金の支給、酸素ステーション設置などの補正予算案2件ですが、ワクチンの個別接種に取り組む地域の診療所等への協力金支給は、都内各地のワクチン接種を後押しする上で効果的です。

また、都議会自民党がかねてより求めてきた、売上の減少が続く業種に対して、国の月次支援金に加え、都独自の給付金を加算するという経済支援は、感染防止に協力し、長いコロナ禍で疲弊した、各業種の方々を支える大事な取組です。

さらに、酸素ステーションの設置は、入院できない在宅療養者の容態変化に対応し、病床への負担を軽減するものでもあり、いずれも今の医療非常事態の即応体制に必要な対策であります。以上の理由から補正予算案についても賛成しました。

都はこれまでも、必要に応じて、こうした感染症対策や経済支援を重ねてきました。しかし、コロナ対策が長期化する中、都の要請や取組が都民に伝わっていないという指摘があります。東京の先を見据えたコロナ対策の考え方を、今一度、改めて都民に示すことが求められているのではないのでしょうか。

ウイルスとの戦いが長期に渡る中で、いわゆる「ゼロ・コロナ」ではなく、感染防止対策に真剣に取り組む事業者とともに、感染拡大を抑えながら日常を取り戻していく、知事もかつて唱えた「ウイズ・コロナ」の考え方を現実的な政策として実現していくことが求められています。

もちろん、「災害級」と表現される現在の状況の中では、まず命を守るための取組を着実に進めることが最優先されます。しかし、現在の医療非常事態を超えた先には、感染防止策を徹底しながら、外に出て、人と人が顔を合わせ、感染防止マナーを守りながら飲食をする、こうした日常が少しずつ戻せるよう、都民が近い将来に希望を持てる対策を進める必要があります。

全ての都民や事業者は、コロナ禍の中で、感染防止対策や経営の維持と工夫など、出来ることを精一杯努めています。都は、行政の役割として、国と区市町村とともにワクチン接種を着実に進めながら、都民生活や都内経済活動の回復に向けた道筋を都民に具体的に示すことが求められています。

我が党の提案に、公明党、都民ファーストの会、立憲民主党の賛同を得て、この度、コロナ対策特別委員会が設置されました。継続性と迅速性が必要なコロナ対策について、東京の実態を踏まえた議論を、今後深めてまいります。

最後に、多くの感動を呼んだオリンピック同様、パラリンピックも安全・安心な大会として開催されるよう求めるとともに、オリンピックでは叶わなかった児童や生徒の観戦に当たっては、感染状況の見極めと感染防止策の充実に努めるよう求めておきます。

末尾に、本日も議会に出席していない木下富美子議員は、都議会の辞職勧告決議を重く受け止めるべきであると強く指摘しておきます。

都議会自民党は、責任と実行力のある都政の実現へ向けて、引続き都民のために全力を尽くすことを固くお誓い申し上げます。